

「むかし 狛江で」

歌と紙芝居で平和を願うひとときに

80年前の5月25日、狛江に空襲があり、狛江第1小学校(当時は狛江国民学校)が焼失したその日に、第一小学校跡地の石碑の建つ傍のほこみちステージで実施しました。

こまえ平和フェスタ 2025 のプレ企画であり、狛江市等、4団体の後援をいただき、事前に小・中・高校生に案内状を配布、公共施設・まわりの方々に配布、商店等にもポスターとして貼りだしていただきました。案内状を見て、あるいは子どもに誘われて来場された方がほとんどでした。

朝方まで雨が降り、曇天で、ステージは雑巾でふき取ることから始めました。また予想外に肌寒かったです。

催し「むかし 狛江で」は2部構成で、1部では平和に因んだ歌をみんなで歌うことを中心に、2部は紙芝居「戦争と狛江の子ども達」(1999年3月狛江市作成)を上演し、上演後、焼夷弾やそれが狛

江市内に落とされた地域を解説し、最後は「水と緑のまち」の合唱で締めくくりました。

また、テーブル上で折り鶴を折っ



開始の挨拶をする司会の広木さん



「みんなであうたう平和の歌」の歌唱指導する大熊さん

てもらいました。その折り鶴を千羽鶴にして、今年は長崎（去年は広島）に送る予定です。

来場者は「大きなうた」「ひとつのうた」など、歌詞を追いながら歌い、大熊啓さんの「にんげんをかえせ」に聞きほれ、「HEIWA の鐘」を合唱し、リラックスしました。

紙芝居は 4 人の読み手と抜き手で上演。1小跡地石碑前の老人夫婦の会話と回想から始まり、戦前から太平洋戦争へ、ひもじい時代、そして 1945 年の東京大空襲、5月 25 日には粕江も空襲被害を受け、その後も怖い思いをしながら、やがて戦争が終わる。その後も苦しい時代となるが、校舎が出来、子ども達に明るい未来を！でクライマックス、再び石碑前で終わります。



大人・子どもともに多くの方が真剣なまなざしで聴いて
いました。

焼夷弾の手作り模型を子どもが手に持って実感しました。

昨年の来場者80名ほどに比べて、少なめでしたが、
今年は楽市が開かれず、その場で参加した人は圧倒的
に少なかったことも影響していると思われます。それでも
55名の方に来場していただきました。

80年前の情景に一時、思いを馳せることができたでし
ょうか。





焼夷弾模型を手に、地図を示して説明する佐久間さん



「あの夏の絵」拍江公演を紹介



エンディング合唱「水と緑のまち」